

新プロダクトHULFT Squareの押しどころ

-

自己紹介

平井 智崇(DMS Cubeアカウント名：ともひら)

テクバン株式会社 システムソリューション事業部

DataSpider,Oracle Integration Cloudを利用したデータ連携システム構築事業に携わる

- ＞マーケティングオートメーション新規導入に伴うデータ連携

- ＞生産管理システム更改/クラウド化に伴うデータ連携

自社内研究プロジェクトとして、EAIツールのトレンド調査のため、

Talend,Mulesoftなどの他EAIツールも検証

DataSpiderの構築案件の中で、クラウドサービスとの連携のための

次世代サービスとして「HULFT Square」を、セゾン情報システムズ様から紹介していただいた

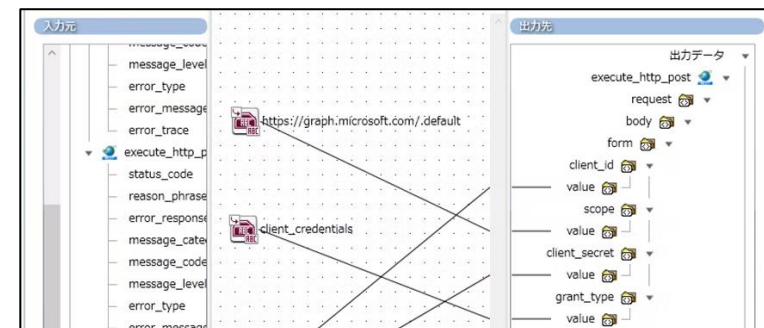
ブログ概要

主にネットワークコネクタのRESTコネクタを使用して、
様々なクラウドサービスとの連携を実現してきました

- トークン認証
 - コネクション設定の範囲で対応可能
 - SmarHR、Zendeskなど多数
- OAuth認証
 - OAuth認証設定の範囲で対応可能
 - OAuth認証には方言が多く、仕様の確認は不可欠
 - ServiceNowなど ☆コネクタのリリースが決定
- 変則的なトークン認証(独自のリクエストフォーム)
 - HULFT Squareで認証のためのスクリプトを作成して対応可能
 - Microsoft Teamsなど

詳細な手順は私のブログをご参照ください

<https://dmscube.com/view/search/result/%23つないでみた?type=post>

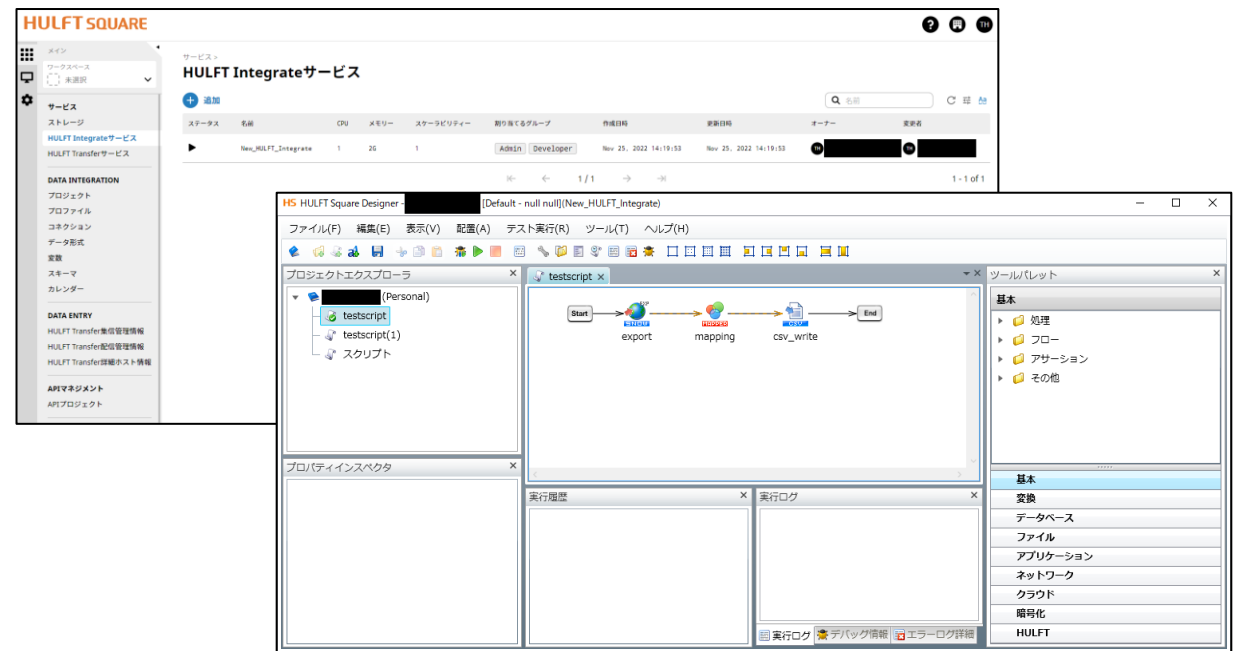


HULFT Squareとは？

HULFT Squareは、さまざまなシステムやサービスと統合し、データを「安全・安心・柔軟」に連携するためのGUIベースの開発が可能なプラットフォームです

データ連携

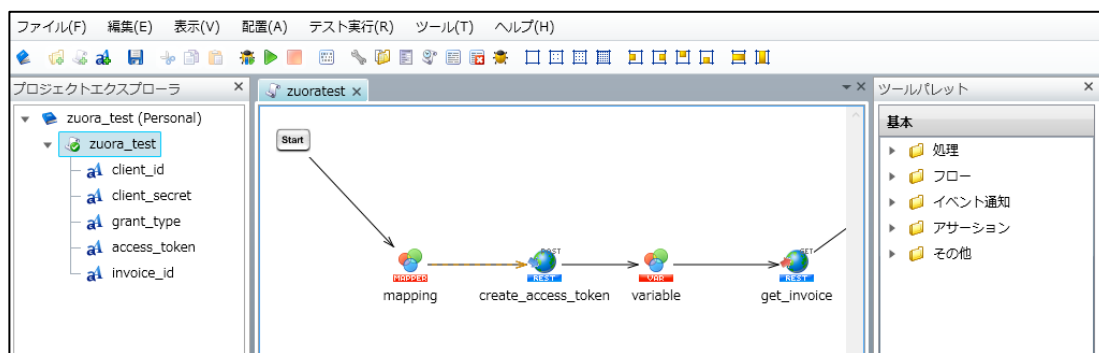
データ連携スクリプトの開発、実行をグラフィカルに行うことができます。アイコンをドラッグして設定するだけで、データ接続と連携を作成できます。接続先リソースの仕様に関する知識がなくても簡単に連携できます



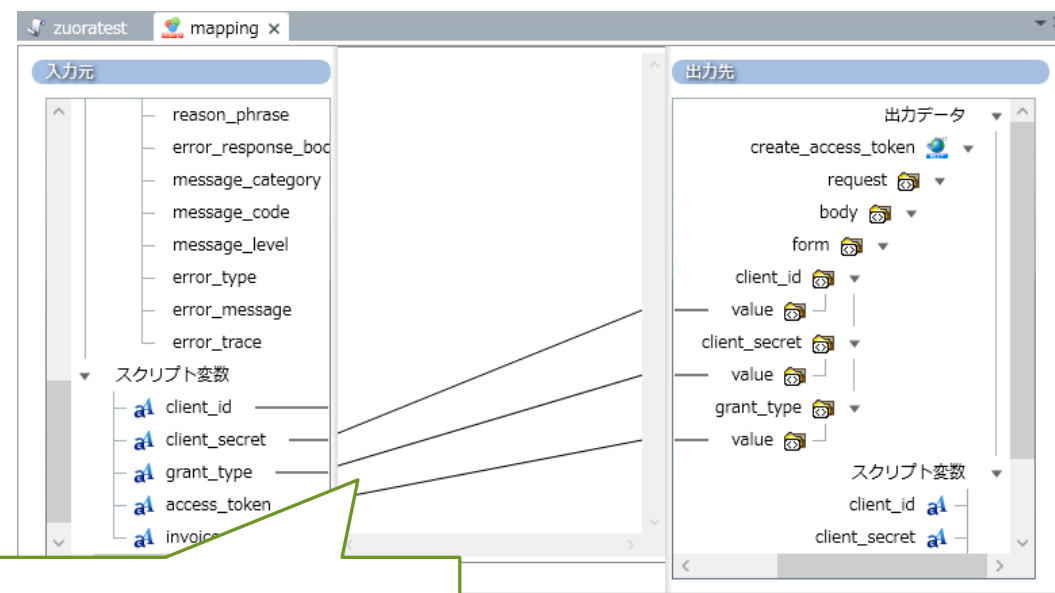
https://www.hulft.com/service/hulft_square

DataSpiderライクな操作性

データ連携を設定する際のUIはDataSpiderのものが踏襲されており、DataSpiderでの経験が活かされます。



DataSpiderライクなキャンバス画面



マッピング設定の画面も踏襲

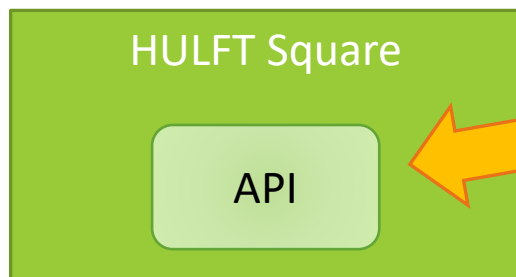
DataSpiderと比較した新しい特長（「APIマネジメント」機能）

APIマネジメント機能として、APIエンドポイントを作成する機能が追加されました。

データ連携機能で処理した結果を他システムから参照しやすくなります。

APIマネジメント機能とは・・・

HULFT Squareに
登録されたリソースを用いて、
オリジナルのAPIを
開発することができる機能です。



The screenshot shows the "APIプロジェクト > testapi > リソース" page. It features a table of resources with columns for path, HTTP method, and actions. The first resource is "/resource01" with a "GET (新規)" method. To the right of the table are configuration panels for "実行スクリプト" (Execution Script), "リクエスト設定" (Request Settings), and "レスポンス設定" (Response Settings). Three callout boxes with green borders point to specific fields: "コールするスクリプトを指定" points to the "スクリプト" field in the Execution Script panel; "クエリで使用する値を指定" points to the "クエリー パラメータ" field in the Request Settings panel; "レスポンスで返す値を指定" points to the "レスポンスコード" field in the Response Settings panel.

パス	HTTPメソッド	アクション
/resource01	GET (新規)	リソースとして使用可能な文字

実行スクリプト

- プロジェクト: Select...
- バージョン: Select...
- スクリプト: Select...

リクエスト設定

- パス パラメーター: [Add]
- クエリー パラメータ: [Add]
- リクエスト ヘッダー: [Add]
- カスタム パラメータ: [Add]

レスポンス設定

- レスポンスコード: 200
- レスポンス ヘッダー: [Add]
- レスポンス本文: [Add]

Buttons: Cancel, Apply

DataSpiderと比較した新しい特長（「ユーザー管理」機能）

ユーザー管理機能として、ユーザーグループとポリシーを設定する機能が追加されました。

ポリシーにより、DataSpiderよりキメの細かな運用が可能になります。

ユーザー管理 > **グループ > 新規追加**

名前 *

説明

ポリシー

メンバー

設定を共有するグループを作成

グループのアクセス権限を指定

任意のメンバーを追加

ポリシーに権限を追加

権限

- APIClientAdminAccess
- APIProjectAdminAccess
- CalendarResourceAdminAccess
- ConnectionResourceAdminAccess
- DataFormatResourceAdminAccess
- DownloadObject
- EditAPIClient
- EditAPIProject
- EditAPITokenExpirationPeriod
- EditCalendar

多様なアクセス権限

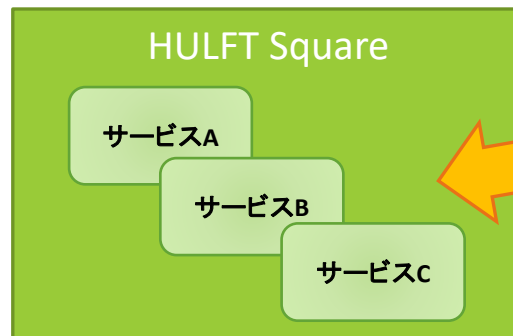
DataSpiderと比較した新しい特長（「サービス」機能）

iPaaSであるHULFT Squareでは

データ連携・ストレージ・ファイル連携(HULFT Transfer)機能を稼働させるサーバリソース＝「サービス」をGUIから自由に追加・削除できます。

「サービス」とは・・・

HULFT Squareの機能を実行させるためのコンピュータリソースです。
どのサービスで処理を実行するかはプロジェクト毎に指定することができ、
メモリー消費の大きな処理を独立させるなどの運用も可能です。



The screenshot shows the 'HULFT Integrateサービス > 新規追加' (New Registration) screen. It includes a '戻る' (Back) button and a '全般' (General) tab. The 'サマリー' (Summary) section displays the following fields:

- 名前 * (Name): New_HULFT_Integrate
- 説明 (Description): [Empty text area]
- CPU: 1 (dropdown menu)
- メモリー (Memory): 2GB (dropdown menu)
- スケーラビリティ (Scalability): 1 (dropdown menu)
- 割り当てるグループ * (Assign Group): Select...

At the bottom, there are 'キャンセル' (Cancel) and '次へ' (Next) buttons.

データ連携エンジンを
サイズ指定して追加/削除

※ファイルストレージ、
HULFT機能も同様

利用グループを指定

DataSpiderと比較した新しい特長（「HULFT Transfer」機能）

ファイル連携のための機能として、HULFT Transfer機能が追加されました。

HULFTの配信・集信のホストの一つとして機能します。

The screenshot displays the 'HULFT Transfer' configuration interface, specifically the 'New Addition' (新規追加) form. The interface is divided into two main sections: a left sidebar and a main form area.

Left Sidebar:

- Header: DATA ENTRY > HULFT Transfer集信管理情報 > 新規追加
- Menu: 全般 (General) is selected, with サマリー (Summary) below it.
- Buttons: 戻る (Back) at the top, and キャンセル (Cancel) and 次へ (Next) at the bottom.

Main Form Area:

- 名前 * (Name): 新しい集信管理情報 (New Collection Management Information)
- ワークスペース (Workspace): Personal (dropdown)
- 説明 (Description): Empty text field
- ファイルID * (File ID): Empty text field
- 転送タイプ * (Transfer Type): バイナリ (Binary) (dropdown)
- 配信ファイル * (Distribution File): ストレージのファイルパス (Storage File Path) (text field) with a 参照 (Reference) button.
- 集信ホスト名 * (Collection Host Name): Select... (dropdown)
- DEFLATE圧縮 (DEFLATE Compression): ☐
- DEFLATEレベル * (DEFLATE Level): 標準 (Standard) (dropdown)
- コード変換 * (Code Conversion): 配信側 (Distribution Side) (dropdown)
- 転送間隔 * (Transfer Interval): 0 (text field)
- シフトコードの扱い (Shift Code Handling): ☒
- 暗号キー (Encryption Key): Empty text field
- Buttons: キャンセル (Cancel) and 次へ (Next) at the bottom.

A green callout box points to the '説明' (Description) field with the text: HULFTの集信・配信機能が追加 (HULFT's collection and distribution functions are added).

HULFT Squareでの新しい活用

機能名	機能概要	活用例
APIマネジメント	データ連携処理をREST APIに準拠した形式で他システムから参照できるようになり、データの受け渡しのハードルが下がりました	HULFT Squareを社内のデータ連携のためのAPI拠点として、データ連携の敷居を下げます
ユーザー管理	ユーザーをグループ毎に区分けして設定へのアクセス権限を指定できるようになり、業務ごとにユーザーの住み分けができるようになりました	社内での予期しないユーザーによる設定変更事故を予防します 設定作業の外注時にも作業者が利用できる設定を制御できます
サービス	データ連携の処理量に応じて自由に「サービス」のサイズを拡張できるようになりました	一部業務への導入から始める スモールスタートに対応します 業務ごとに実行場所を分けることも可能なため、処理量に差がある業務を分けて運用できます
HULFT Transfer	HULFT機能が追加され、既存環境のHULFTとより密に連携が取れるようになりました	社内にHULFTが導入済の場合、外部サービス向けのファイル連携処理を実装しやすくなります

まとめ

HULFT SquareはAPIマネジメント機能が追加されたことにより、
スクリプトで指定した固定のシステム間でのデータ授受だけでなく
データ連携処理で構築した成果をAPIとして広く共有できるようになっています。
データ連携の「道」だけでなく、
データを共有する「場」にもなります。

